

平成24年度第1回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：平成24年8月3日(金)13時～15時15分

場所：企業局1号会議室

議 事 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

■ 事務局説明

協議資料1及び2に基づき事務局より説明

■ 意見交換

- 指標の目標値の設定の仕方で、各プロジェクトの評価が大きく変わってくる。夢チャレンジ指標と各重点プロジェクトとが必ずしも整合していないのではないかと。
- 指標の設定根拠をはっきりさせる必要がある。無理な目標設定をしても意味がない。
- 成果（アウトカム）と課題を箇条書きにした方がわかりやすい。
- 事務局の自己評価だけでなく、教育現場から評価や外部評価など、評価体系そのものの検討が必要ではないかと。
- コミュニケーション能力については、幼児期からの長期的な取組による育成が必要。
- 人口減少時代において、地域と一体となった取組は重要。教育現場へのボランティアの参画など地域力の涵養が必要。
- 乳幼児期の子どもに対する「思いやりの心」や「体力」への取組は、現場でも懸命に進めているが、家庭の事情などもあり、なかなか保護者に伝わらない。
- 幼児期の子どもはすごく本を読むが、学校に入ると他に興味が行って読まなくなる。学校に読みたい本がないのではないかと。
- 体力テストの指標について、「平均以上」という表現は誤解を生む。「絶対評価「C」以上」とカッコ書きすべき。
- 朝食については、シングルマザーの家庭で子どもが朝食を摂らないなど、家庭環境によっても左右される。
- 県からのメッセージを正確に伝達するためには、メディアを介することが重要。「はつらつ山口っ子」等の番組の存続を。
- 高校生になってから読書しろと言っても遅い。幼児期からの発達段階に応じた重点的な取組が必要。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」というが、全国的には「早起き・早寝・朝ご飯」（まず早く起きる習慣をつけることで早寝をするようになる）という順番が一般的になっている。逆転させてはどうか。
- 子どもたちが夏休み明けにハツラツとして登校できるよう、例えば夏休みの宿題をなくすとか、宿題の評価方法を変えるとか、思い切ったことも必要ではないかと。